

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米利上げ期待の高まりを受け雇用情勢にも注目

2022年1月31日

ここきて米国の利上げ期待がさらに強まっています。次回3月の利上げはほぼ確定的ですが、その利上げ幅について、2000年5月以来約22年ぶりとなる0.5%ポイントになるのではとの期待が一部出てきています。大方の予想通り0.25%にとどまったとしても、年内の利上げについて、従来の4回から5回以上に見通しが引き上げられつつあり、積極的な金融引き締めに向けた期待感が強まっています。

物価高が止まらない状況がこうした積極的な引き締めへの期待につながっています。一方で、こうした利上げサイクルを支えるためには、物価の安定と並ぶもう一つのFRBの命題、雇用の最大化に向けた動きも順調に進む必要があります。

そうした中で、4日に1月の米雇用統計が発表されます。3月のFOMCに向けて今回と次の雇用統計はかなりの注目を集めています。

前回12月の雇用統計は非農業部門雇用者数(NFP)が前月比19.9万人増と、市場予想の45.0万人増を大きく下回りました。前回11月分は市場予想55.0万人増に対して速報時点では21.0万人増となっており、2か月続けての市場予想との弱い方向での乖離です（11月分はその後24.9万人増に上方修正）。

一方で前回の失業率は3.9%と市場予想の4.1%、11月分の4.2%から低下。11月分も市場予想の4.5%に対して4.2%となっており、予想を超える失業率の低下が続いています。事業所ベースのデータを基にした雇用者数増減が弱く、家計調査ベースの失業率が強いという乖離が続いている格好です。

NFPに話を戻しますと、前回、前々回と弱めに出了背景には、一つは小売業の弱さがあります。12月の小売業は0.21万人の減少と、2か月続けて雇用が減少しました。もう一つはレジャー & ホスピタリティ部門の雇用者数の鈍い伸びが続いていることがあります。単独で1100万人以上の雇用者を抱える飲食部門(レストラン・バーなど)やホテルなどの宿泊部門、映画館・劇場・カジノなどの娯楽施設部門からなる同部門は、新型コロナの感染拡大の影響を強く受けて、2020年春に大きく雇用を減らした後、回復を続けてきた部門です。新型コロナ前と比べるとまだまだ雇用が回復しきれておらず、今後の回復が期待されている部門でもありますが、ここに来て伸びが鈍化しており、10月の21.1万人増に対して、11月は4.1万人増、12月は5.3万人増に留まっています。

また、介護など人手を多く必要とし、雇用増を続けているヘルスケア & 社会福祉部門も、10月の5.18万人増から11月は0.8万人増、12月は0.61万人増と鈍い伸びに。

総じて新型コロナの影響を受けやすい部門での伸びの鈍化だけに、オミクロンの影響が出ている可能性があり、警戒感につながるところです。

続いて、関連指標動向を見てみましょう。

週間ベースの新規失業保険申請件数は、雇用統計の基準日である12日を含んだ週の数字が29.0万件(速報時点では28.6万件)と、昨年10月以来の高水準となりました。一時期は20万人を割り込むペースとなっていましたので、要警戒です。

1日の米ISM製造業景気指数は58.0と前回の58.7から若干の鈍化見込み。3日のISM非製

造業景気指数は59.6と前回の62からこちらも鈍化見込みです。雇用部門の数字にもよりますが、景況感がやや鈍化傾向に。もっとも好悪判断の境となる50をしっかりと上回っており、そこまで悪い水準ではありません。

2日の米ADP雇用者数は20.8万人増と、前回の80.7万人増から大きく鈍化見込みです。11月も雇用統計本番に比べてかなり強い50.5万人増となっており、12月はさらに強く出た形でしたが、雇用統計本番は12月も弱いと、乖離が目立っています。今回はADPも弱く出るということで若干警戒感につながっています。

こうした状況を受けて、今回の予想は17.8万人増と、前回からさらに少し鈍化する落ち着いた伸びが見込まれています。関連指標がいまひとつな期待となっていること、前回までの2か月続けての低めの伸びを受けて、一時の大幅増への期待が後退している形です。

ただ、コロナ前の通常状況であれば17.8万人増は水準的に力強い伸びであることや、4%を割り込んでいる失業率が前回と同水準を維持するとの見込みであることから、市場予想通りでも弱いという印象はあまりなさそうです。3月に発表される2月の雇用統計にもよりますが、大幅利上げの可能性を残した形での推移が期待されます。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」ずばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。